

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

## イネカメムシの県内における発生状況について

イネカメムシは、近年全国的に被害が拡大しており、本県での被害の発生を警戒している斑点米カメムシ類です（写真1）。本種は、水稻の出穂始めに糞を吸汁して不稔にし、大きな減収被害を生じさせるなど、他の斑点米カメムシ類とは異なる特徴があり、適期の本田防除が重要です。

8月上旬の早期水稻及び山間早植え水稻の定期調査において、複数地点で本種の発生を確認したことから、県内での被害の発生が懸念されます。ついては、本種の発生するおそれが比較的高いと考えられる山間、山麓部地域においては、本種の発生に留意するとともに、下記を参考に防除対策を徹底するよう、生産者への指導をお願いします。

記

### 1. イネカメムシの発生状況

#### 1) 早期水稻

県内3地点12圃場での捕虫網によるすくい取り調査（令和6年8月5日実施）では、イネカメムシ成幼虫が7圃場で認められ、調査した3地点すべてで本種の発生を確認した（表1）。

#### 2) 山間早植え水稻

県内3地点12圃場での捕虫網によるすくい取り調査（令和6年8月2日実施）では、イネカメムシ成虫が1圃場で認められた。

### 2. イネカメムシによる被害の特徴

本種は、出穂直後から糞の基部を加害することで不稔糞を生じさせ、被害が甚だしいと大きな減収を引き起こす。また、穂揃期以降は、糞の基部に吸汁痕を残した斑点米を生じさせ、等級格下げの原因となる。

### 3. 防除対策

1) 圃場内をよく観察し、本種の早期発見に努める。

2) 出穂後に本種の発生を認めた圃場では、通常の斑点米カメムシ類の防除適期である穂揃い期～乳熟期の防除を行う。

3) 出穂前に本種の発生を認めた圃場では、通常の斑点米カメムシ類の防除適期である穂揃い期～乳熟期の防除だけでなく、出穂期の薬剤散布も検討する。

写真1 イネカメムシ成虫【A】及び幼虫【B】 令和6年8月5日採集)

成虫の体長は13mm前後



表1 斑点米カメムシ類の水田におけるすくい取り調査結果 (早期水稻)

20回すくい取り虫数 (調査日: 令和6年8月5日)

調査地点	イネカメムシ		クモヘリカメムシ		ホリハリカメムシ		シラホカメムシ類		アスジカメムシ		ミナミアカメムシ
	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫
A-1	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0
A-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A-3	1	0	0	1	0	0	0	0	19	4	0
A-4	0	0	0	0	0	1	0	0	7	0	0
B-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B-3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B-4	2	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0
C-1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C-2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C-3	0	3	2	1	0	0	0	0	0	0	1
C-4	7	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0

水稻の生育ステージ: 乳熟期~黄熟期

連絡先: 佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail [nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp](mailto:nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp)

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

